

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 7 日現在

機関番号：12604

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350839

研究課題名(和文) ラオス・タイを中心としたメコン流域の途上国における青少年の発達資産と健康

研究課題名(英文) Health and development assets among youth in developing countries along the Mekong basin with a focus on Laos and Thai

研究代表者

朝倉 隆司 (Asakura, Takashi)

東京学芸大学・教育学部・教授

研究者番号：00183731

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：ラオスとバングラデシュの青少年の健康的発達に資する心理社会的資源(発達資産)を探し、尺度開発することである。ラオスとバングラデシュの教員養成系大学でインタビューなどによる質的研究を行い、構成概念を抽出した。それをもとに質問項目を作成し、10代後半から20代前半の若者を対象に調査を実施し、尺度開発を行った。

その結果、支援的社会環境、安全な環境、魅力的な人間関係、規範と参加、積極的学習態度、肯定的価値観、社会的スキル、自己肯定感、文化的価値と行動、を測定する尺度が作成できた。これらは、幸福感、主観的健康、コントロール感と関連があり、若者の健康的発達に貢献する心理社会的資源であると考えられる。

研究成果の概要(英文)：To find psychosocial qualities for healthy development of youth in Laos and Bangladesh. We used qualitative research methods such as semi-structured interview, focus group interview, and free descriptive answer. When we analyzed our qualitative data, we referred to three models developed by Search Institute, Developmental Assets Initiative, and National Institute of Educational Policy Research. We categorized 7 psychosocial qualities extracted from our qualitative data: 1) supportive environment, 2) safe environment, 3) social norm, 4) engagement in learning, 5) positive values, 6) social skill, 7) self-affirmation, and 8) cultural value and behavior. Based on these constructs, we prepared 52 items and tested in youth samples. Generally, we confirmed these constructs by confirmatory factor analysis. Finally, we developed 9 to 10 scales for assess psychosocial assets. Majority of these scales were related to happiness, self-rating health, and sense of control in youth samples of both countries.

研究分野：健康社会学

キーワード：ラオス バングラデシュ 発達資産 若者 主観的健康 幸福感 コントロール感 尺度開発

1. 研究開始当初の背景

発達資産 (developmental assets) という概念は、アメリカのサーチ・インスティテュート (Search Institute, 1990) が、子ども・若者が健康に育ち、社会でよりよく生きていくために重要な資質を 40 の要素にまとめて考案したものである。お金のような財産ではなく、社会や大人が子ども・若者の健康のために教育などを通して提供できる無形の「資産」という意味で、発達資産と呼ばれている。しかし、文化・宗教、社会開発が異なる社会では、子ども・若者が健康的に育ち、社会でよりよく生きていくために重要な資質も、異なっていると考えられる。

これまで発達資産は「青少年の教育や健康面でより良い発達を促す環境的諸力と内面的諸力」を意味し、大きく「外的資産」と「内的資産」により構成されている。発達資産が多いほど、子どもの行動は健康で積極的になり、暴力行為や飲酒などの危険行動を起こすリスクが少ないこと、子どもの学業成績が良好であることなどが示されている。

このような好ましい資質の修得を促す社会や学校、家庭の在り方こそ、子ども・若者のヘルスプロモーションにおける支援的環境にあたると思われる。すなわち、WHO のオタワヘルスプロモーションの考えを実現するアプローチだと言える。

しかし、サーチ・インスティテュートの調査票は、著作権があるため、気軽に使うことはできない。それぞれの途上国の文化と社会的背景を踏まえた調査票の開発が必要である。

2. 研究の目的

目的は、ラオス人民共和国、バングラデシュの青少年の健康的な発達に寄与する心理社会的資源を探索し、ラオスやバングラデシュで使用可能な発達資産の調査票を開発することである。

3. 研究の方法

本研究は、尺度を開発するために、まず質的研究を行い、その後量的な研究を行う、混合研究デザインを用いた。

1) 質的研究の方法

ラオスの調査では、2012 年、2013 年にルアンパバーン教員養成大学における教員 (3 名) と学生 (20 名)、ピエンチャン市にあるラオス国立大学附属小学校教員 (9 名)、同中学校教員 (9 名)、大学近郊の保健センター職員 (3 名)、住民 (7 名) を対象にインタビュー調査、自由記述式の調査とフォーカスグループディスカッションを併用した調査を行い、質的データを得た。さらに、2014 年パクセの教員養成大学でも同様の調査を行った。

バングラデシュでは、2014 年に北部のロングプール県 Teacher 's Training College において各クラスより代表の 11 人 (男 5 人、

女 6 人) と教員 3 人 (男) を対象に調査した。ラオスとバングラデシュにおいて、グループ調査は、以下の 2 問を事前に渡して各自の考えを書いておいてもらい、調査日には他の参加者の回答を聞きながら、順に新しい観点について発表していった。

バングラデシュを例に挙げると、Q1「バングラディッシュ人として (あるいは、バングラディッシュにおいて) よい大人とは、どのような人たちですか? その特徴を教えてください。」Q2「そのような良い大人になるために、子ども・若者は地域、学校、家庭においてどのような経験をするのが好ましいでしょうか。また、身につけていくべき特性や行動として、どのようなことが考えられますか。」の 2 問である。発達資産を、それぞれの国の社会において良い大人と認められる人に成長するための好ましい資質や生育条件と読み替え、質問した。

ファシリテーターは、それぞれの現地語ができる日本人である。ラオスでは、ラオス国立大学の研究協力者が同行し、通訳等を行った。

ちなみに、ラオスは仏教国であり、バングラデシュはイスラム教国である。

2) 量的調査の方法

ラオスでは、ルアンパバーン県の国立教員養成大学の学生 245 名から、バングラデシュでは、マイメンシン県ショドール郡の中等学校 3 校で 9 年生と 10 年生 280 名から、調査票を回収した。

調査票は、英語で作成し、ラオス語、ベンガル語にバイリンガルの翻訳の専門家と教育の専門家に依頼し、それぞれの言語版調査票を作成した。

調査項目は、発達資産 52 項目、主観的健康、幸福感、コントロール感である。

発達資産の概念構成は、支援的環境、安全な環境、信頼感、社会規範、活動への参加、肯定的な学習への態度、肯定的な価値観、社会的スキル、自己肯定感、文化的な価値と行動である。

分析は、Mplus7.4 を用いて、探索的なカテゴリカル因子分析を行った後、確認的因子分析を行い構成概念の妥当性を確認した。そして、クロンバック 信頼性係数を算出して、信頼性の確認を行った後、単純合計により尺度を作成した。それらの尺度と、主観的健康感、幸福感、コントロール感との関連を確認し、基準関連妥当性の検証を行った。

4. 研究成果

1) 質的研究の成果

(1) ラオスの結果

外的資産の例

1) **支援**: help each other (助け合う); have a warm family (温かい家族); good friendship (良い友人関係); attach to school/community (学校/地域への愛着)

2) **エンパワメント(安全)**: live in a good

living condition (良い生活環境での生活); peaceful family environment. (平和な家族環境)

3) **規範・規則・役割モデル**: keep laws in a family, school, community and nation; (家庭・学校・地域・国のルールや法を守る) moral sense or conscience (道徳観、道徳意識); tell Laotian culture to others (ラオス文化を伝える); trust the political leader. (政治リーダーへの信頼)

4) **建設的時間の使用**: using time in a proper way (適切に時間を使う); engage in duties allocated in a family (家族内の役割に従事); engage in extra-curricular activities in a school or in a community (学校や地域で課外活動をする); participate in community activities. (地域活動に参加)

内的資産の例

5) **積極的学習態度**: actively engage in learning (学習に積極的に参加); attending a school (学校に行く); have skill to learn a new knowledge via internet (インターネットで新しい知識を得るスキル); have courage to ask a question to a teacher in a class (教室で質問する勇気); love to learn from superiors (年長者から学ぶ)

6) **肯定的価値観**: high value on honesty (正直に価値を置く); high value on devotion to parents (両親に尽くす価値); high recognition of importance of health (健康への価値); conserving environment (環境保護); patriotic (愛国心)

7) **社会的能力**: using words and phrases or speaking to people in a proper way (time, place, opportunity) (適切な言葉で話す); high value on Laotian traditional culture (ラオスの伝統的価値); have a respectful mind to elderly (年長者を敬う); exchange greetings (挨拶); slow to anger (すぐかっとならない)

8) **自己肯定**: e.g. be positive (肯定的); encourage (勇気); confident (自信); indulgent (勤勉); unity power (連帯)

(2) バングラデシュの結果

ラオスの結果と比較して、際立ってきた点を上げると、**愛国心、愛他的精神、宗教的・倫理的態度、新たな肯定的価値観**とも解釈できる人権意識、**社会的適応力**が浮かび上がってきた。具体的な回答例を上げると、愛国心は「国を愛す」、愛他的精神は「他の人に尽くす気持ちを持っている」、宗教的・倫理的態度は「他の人を傷つけない」や「自分の宗教のルールをしっかりと守る」、「高い道徳的価値観」などである。新たな肯定的価値観(あるいは人権意識)は「宗教で差別しない、人として見る」、「gender sensitive」、「すべての職業に尊敬の心を持つ」である。社会的適応

力では「社会の変化に適応できる」が相当する。

一方、エンパワメントは、良い大人の特徴では上がってこず、良い大人になるための経験の中で上がってきた。エンパワメントは、むしろ育ちの条件に相当すると思われる。

さらに、社会的能力は、**文化的社会能力**と概念化した方が良いと思われた。「穏和」「目上の人を尊敬する」など文化により重要性が異なると思われる要素が指摘されていたからである。

2) 量的研究の成果

対象者は、ラオスは、年齢は16歳から23歳以上であり、51.6%が男であった。一方、バングラデシュは、15歳から17歳であり、82.6%が男であった。

まず、カテゴリカルデータに対する因子抽出法(WLSMV)を用いた探索的因子分析を行って、因子構造を決めた。その測定モデルに対して確認的因子分析を行い、データとの適合度が良好なモデルを作った。

その結果、概ねラオスとバングラデシュの両サンプルに共通した構成概念による測定モデルを開発することができた。

ラオス人サンプルの場合、10の尺度を作成した(表1)支援的環境が、家族と学校・地域の2因子に分かれ、社会規範と活動への参加が一つのまとまった因子になった。

表1 ラオスの若者の発達資産尺度

Scale	Number of item	Mean (sd)	Cronbach's alpha coefficient
Supportive family	4	17.2(2.12)	0.60
Supportive school and community	4	14.4(2.19)	0.63
Safe environment	4	16.1(2.17)	0.68
Good human relationship	4	14.3(2.08)	0.65
Participation and norm	7	29.0(3.02)	0.73
Positive attitude to learning	5	20.8(2.25)	0.62
Personal values	5	21.6(2.57)	0.72
Social skill	8	33.1(3.49)	0.72
Self-affirmation	4	16.4(2.29)	0.67
Cultural value and behavior	5	26.2(2.62)	0.72

これらの尺度と主観的健康感、幸福感、コントロール感との関連を検討したところ、表2に示した通り、概ね有意な関連が認められた。尺度得点が高いほど、健康は良好であり、幸福感は高く、人生に対するコントロール感を持っており、予想通りの関連であり、基準関連妥当性が検証できた。

同様な検討を、バングラデシュのサンプルについても行った。表3に示した通り、ラオスと異なり、支援的環境が1因子にまとまり9尺度となった。

表2 ラオスサンプルにおける発達資産尺度と主観的健康感、幸福感、コントロール感の関連

Scale	Self-rating health	General Hapiness	Sense of personal control
Supportive family	0.22**	0.24**	0.21**
Supportive school and community	0.18**	0.32**	0.27**
Safe environment	0.08	0.22**	0.24**
Good human relationship	0.10	0.22**	0.33**
Participation and norm	0.15*	0.14*	0.36**
Positive attitude to learning	0.23**	0.21*	0.27**
Personal values	0.25**	0.16*	0.30**
Social skill	0.15*	0.15*	0.30**
Self-affirmation	0.22**	0.22**	0.37**
Cultural value and behavior	0.18**	0.20**	0.20**

SRH: In general, how would you rate your health? Very good(5) to very bad(1)
Hapiness: In general, I consider myself a very happy person. Strongly agree (5) to strongly disagree (1)
Control: I can do just about anything I really set my mind to do. Strongly agree (5) to strongly disagree (1)

表3 バングラデシュの若者の発達資産尺度

Scale	Number of item	Mean (sd)	Cronbach's alpha coefficient
Supportive environment	8	33.4(4.25)	0.78
Safe environment	4	16.2(2.96)	0.71
Good human relationship	5	20.5(3.03)	0.71
Participation and norm	6	24.0(3.79)	0.74
Positive attitude to learning	4	17.2(2.41)	0.69
Personal values	5	23.1(1.90)	0.69
Social skill	8	33.2(3.81)	0.67
Self-affirmation	4	17.4(2.59)	0.78
Cultural value and behavior	6	27.5(2.56)	0.71

また、発達資産尺度と主観的健康感、幸福感、コントロール感の関連を検討した結果、ラオスのサンプルと同様に、概ね有意な関連が見られ、基準関連妥当性が検証できた(表4)。

表4 バングラデシュサンプルにおける発達資産尺度と主観的健康感、幸福感、コントロール感の関連

Scale	Self-rating health	General Hapiness	Sense of personal control
Supportive environment	0.26**	0.42**	0.20**
Safe environment	0.24**	0.26**	0.20**
Good human relationship	0.20**	0.34**	0.21**
Participation and norm	0.22**	0.25*	0.25**
Positive attitude to learning	0.19**	0.23**	0.25**
Personal values	0.06	0.10	0.16**
Social skill	0.12*	0.19**	0.14*
Self-affirmation	0.10	0.29**	0.34**
Cultural value and behavior	0.13*	0.21**	0.16**

結論：ラオス人民共和国、バングラデシュの青少年の健康的な発達に寄与する心理社会的資源を探索し、ラオスやバングラデシュで使用可能な発達資産を測定する尺度を開発することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

Asakura T, Mallee H, Tomokawa S, Moji K, Kobayashi J. The ecosystem approach to health is a promising strategy in international development: lessons from Japan and Laos, *Globalization and Health*, 2015,11: 3 doi: 10.1186/s12992-015-0093-0.

[学会発表](計4件)

- 1) 朝倉隆司、シンポジウム 多様化・複雑化する子どもの教育課題と健康課題の現状、日本地域看護学会 第18回学術集会、横浜パシフィコホテル, 2015年8月26日~27日
- 2) 朝倉隆司、友川幸、開発途上国の青少年が”良い”大人に成長するための条件とは：ラオス・バングラデシュにおける発達資産調査から、第12回日本教育保健学会、日本福祉大学半田キャンパス、2015年3月21日~22日
- 3) 朝倉隆司、友川幸、鳥澤一馬、ラオスにおける青少年の発達資産に関する予備的研究、第61回日本学校保健学会、金沢市文化ホール、2014年11月14日~16日
- 4) Takashi Asakura, Sachi Tomokawa, Kazuma Torisawa, Uttha Khamheang, Nguay Keosada, Bounseng Kanhavong, Bouaphanh Ludetmounsone, Phoumy Douangchanh, Kazuhiko Moji, A PRELIMINARY STUDY ON PSYCHOSOCIAL QUALITIES OF CHILDREN AND ADOLESCENT FOR HEALTHY DEVELOPMENT IN LAO PDR, The 8th National Health Research Forum, NIOPH,MOH,Lao PDR,2014.16-17 October

[図書](計2件)

- 1) 朝倉隆司、東山書房、第3章1 子どもの発達と健康課題の特徴、岡田加奈子・河田史宝編著「養護教諭のための現代の教育ニーズに対応した養護学概論 理論と実践」Pp.30~43、2016
- 2) 朝倉隆司、ぎょうせい、現代社会と思春期-子供達の心とソーシャル・キャピタル・発達資産、聖カタリナ大学編「聖カタリナ大学「風早の塾」現代社会を生きる叢智 生老病死をこえて」Pp.207~235、2015

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計0件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://asakura-laboratory.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

朝倉隆司 (ASAKURA, Takashi)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：00183731

(2) 研究分担者

友川 幸 (TOMOKAWA, Sachi)
信州大学・教育学部・准教授
研究者番号：30551733

渡辺 隆一 (WATANABE, Ryuichi)
信州大学・教育学部・名誉教授
研究者番号：10115389

(3) 連携研究者

竹鼻ゆかり (TAKEHANA, Yukari)
東京学芸大学・教育学部・教授
研究者番号：30296545